

景況レポート・4月

4月の県内景況は、回復基調が続き復興の兆しが見えるが、先行きは依然不透明。

情報連絡員による平成24年4月の県内中小企業の景況は、業界全体として「低調」とするところが40.7%（前月比-5.9）、「横這い」は35.6%（同+4.6）、「好況」は23.7%（同+1.3）となっており、業界全体の「景況感DI」は-17.0%（同+7.2）と4ヶ月連続で増加しています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

- ◇前年は東日本大震災発生月の次月ということもあり「売上高」「収益状況」「資金繰り」「設備操業度」および「雇用人員」が前月と比較して増加しています。特に「設備操業度」が10ポイント以上増加しています。
- ◇「在庫数量」「取引条件」および「販売価格」は減少しています。

2. 業種別の「業界の景況」

- ◇前年同月と比較して、食品製造業、木材木製品製造業、鉄工機械製造、その他の製造業、建設業は「快晴」または「晴れ」、繊維製品製造業、卸売業は「雨」、その他の業種「薄曇り」または「曇り」となっています。
※DI値 +30以上「快晴」 +10~+30未満「晴れ」 -10~-+10未満「薄曇り」
-30~-10未満「曇り」 -50~-30未満「雨」 -50以上「大雨」

3. 個別の報告の概要

- ◇食品製造業や青果物卸売業・小売業、共同店舗から厚生労働省が4月1日より、食品中に含まれる放射性物質の基準値を見直したことによる悪影響についての報告が寄せられています。
- ◇紙器製造業、砕石業、建設業からは原材料や資材の値上げによるコストアップについての報告があります。

来月の見通しは、「好転」、「やや好転」の見込みとの回答は22.0%（前月比-5.6）と減少しています（「好転」0件、「やや好転」13件）（製造業7件、非製造業6件）。一方、「やや悪化」、「悪化」の見込みとの回答は、18.6%（同+3.1）と増加しています。「変わらない」見込みとの回答は、59.3%（+2.4）と増加しています。

平成24年4月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率98.3%）

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<鉄工機械>

（郡山地区）
地元の施設物件がまだまだ少ない。

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、新年度に入って新予算に基づき引合い物件が若干出てきているが、受注、売り上げへの効果は先行き不透明となっている。

<電子工業>

生産状況は好転するも、需要先からの年度ごとのコストダウン要求で売上高・利益ともに減少している。今後は固定費の削減に取り組む必要がある。

繊維・同製品製造業

<ニット>

4月中旬まで肌寒い日が続いたのが影響したのか、当組合開催の4月春ニットフェアは思うような結果が出ず、消費者の動向が気になるところである。組合員は秋冬の展示会が進行中であり、今秋の受注を期待しているところである。

<縫製品>

天候不順等の要因により販売状況が芳しくなく、夏物の追加生産がなくなっている。秋冬物の生産準備を早くしないと操業度が低下する恐れがある。

食品製造業

<味噌醤油>

東日本大震災当時からみれば、やや上昇傾向にあるものの、原発事故に伴う風評は今なお続いており、更に国が一般食品中の放射性物質の基準値を、これまでの1/5に変更したため、消費者の放射能汚染に対する不安は大きくなっている。組合員も福島県産の主原料を使用する兆しがなく、自粛が続いている。

<乾麺>

小麦の政府売渡価格の値下げにより、製粉メーカーから7月10日付けで原料について約15%値下げの発表あり。強力粉240円、中薄力260円、内麦粉270円の値下げ（いずれも25kgあたり）。中国産玄蕎麦の価格が高止まり傾向にあり、しばらくは高値安定化か。福島県産玄蕎麦を使用している製麺メーカーは、売り先から放射能検査の要請が多く、苦勞している。

<酒造>

各種復興支援で事業を維持できているが、支援がなくなったことを考えると不安である。今後、首都圏及び海外での安心・安全のPRを計画している。

<食品団地>

A重油の仕入価格もようやく前月比で値下りしたが、まだまだ高値での仕入れが続いている。

木材・木製品製造業

<製材業>

（県一円）
季節が変わり、山からの素材（原木）の供給が安定化に向っているが、県内の製材品需要は局地的で、全体としては盛り上がり欠けている。さらに県外の出荷も住宅着工が振るわないこともあり、首都圏向けが依然鈍く、素材の供給拡大がさらなる値下りにつながる恐れもある。

<外材輸入>

先月に引き続き低調な荷動きで推移している。一部復興資材としての需要はあるが副産品であるため、経営には大きく貢献していない。一部製材品に底値感が出はじめているものもある。

紙・紙加工品製造業

<紙器段ボール箱>

東日本大震災と原発事故が県内の経済に大打撃を与え、消費が一段と減速し、先行き不安と混迷の途にある中、製紙メーカー及び副資材、溶剤メーカーの大幅な値上げが強行され、紙器業界はさらに厳しい経営を強いられている。このような時期こそ、人と人とが直接会って真の情報交換を図っていくことに、組合の存在意義があると確信している。

小売業

<共同店舗>

（浜通り地区のOショッピングセンター）
売上高（前年同月比36.9%の増）客数（前年同月比9.4%の増）とも、前年を上回った。当月は、イベントを実施しなかったが売上は順調であった。当館の業種（8業種）の内、2業種（食堂・喫茶とサービスその他）を除く、すべての業種が前年の売上を大幅に上回った。

（県中地区のNショッピングセンター）

国が食品中の放射性物質の基準値を変更したことに伴い、青果物を中心に、福島県産品がこれまで以上にお客様から敬遠される傾向がある。また、震災後の制度資金活用で当面の資金調達は出来ているものの、長期的には二重債務の状況となっており、今後の対策が求められる。

<石油>

4月に入り、元売各社の仕切価格値上げも一段落したものの、前月までの利益圧迫の状況から販売価格は若干上昇した。4月下旬からのGWは観光客の需要が見込まれることから、業界として県更なる観光PRに期待している。

<青果>

前月同様、単価の高騰はあったものの、取扱量がなかなか増加しなかった。4月から施行された食品の放射能基準についても影響がでた農産物もあったが、市場流通物についての安全性を小売店が消費者にPRしつつ販売をおこなった。きゅうりの産地偽装というニュースもあったが消費者を裏切る事のないように努めたい。

<米穀>

放射能汚染に対する風評被害は相変わらず市場に影響している。市場に対する米穀の流通量は極端に減少しており、今後の現物の手配について対応に苦慮しているところである。当面相場は高値横這いの状態が続くものと考えられる。

<電機製品販売>

全体的に液晶テレビ関連の販売が悪い。白物商品もあまり動きが良くないが、消費者は省エネに感心があり、エアコンなど高めの物が売れ始めている。

窯業・土石製品製造業

<陶磁器>

月前半は客足が少なかったが、後半は連休もあり、人出があった。

<砕石>

（県北地区）
1. 当月売上高の前月比 約15%の減
2. 当月売上高の前年同月比 約10%の増
3. 全数量の前年同月比 約10%の増
4. 原因・状況：新年度に入り、除染工事需要で砕石出荷はあったが、土木工事での出荷が少なかった。砕石製造のコストが機器の修理や運搬費用の高騰により増加しているため、販売価格を上げざるを得ない状況となっている。

<生コン>

平成24年4月の組合員生コン出荷数量は、105,901㎡と前年同月比で112.7%の増となった。東日本大震災で被害を受けた道路、建物、港湾等補修工事の増加が主たる要因。出荷数量の内訳は、官公需が前年同月比166.4%の増、民需は77.9%の増と共に増加する。

■民需の動向

- ①前年同月比減少地区
<会津地区> 10.5%の減
- ②前年同月比増加地区
<県北地区> 58.9%の増
飯坂クリーンサイト浸出水処理設備工事、ハッピー愛ランドほばら新築工事等
- <県中地区> 129.6%の増
ビッグパレット南SS新築工事、デンソー東日本復旧工事等
- <白河地区> 42.5%の増
ピーエス三菱新築工事等
- <いわき地区> 95.8%の増
ハワイアンズ工事、小名浜コールセンター増設工事等
- <相双地区> 583.8%の増
原町火発保安対策工事等

■官公需の動向

- ①前年同月比増加地区
<県北地区> 31.4%の増
栗子トンネル工事、医大新講義棟建設工事、国見流域下水道設備工事等
- <県中地区> 38.8%の増
本宮・杉田間岳道路跨線橋架替工事、郡山市堀口浄水場沈殿池築造工事等
- <白河地区> 63.8%の増
西郷第一中学校工事、真名子地区災害復旧工事等
- <いわき地区> 624.7%の増
小名浜4号ふ頭地区岸壁工事、小名浜港東港地区湾道路復旧工事等
- <相双地区> 1815.7%の増
海岸保全施設整備工事、山上地区橋梁復旧工事等
- <会津地区> 191.0%の増
会津医療センター（仮称）新築工事、只見地区道路・橋梁復旧工事等

運輸業

<トラック運送>

（県北地区）
震災の復興需要は見られるものの、原発事故に伴う放射能の拡散により、県内経済及び物流は一層厳しい状況になっている。除染を真剣に進め、従来の美しいふくしま、豊かなふくしまを取り戻して欲しい。

<ハイヤータクシー>

前年が悪すぎたため前年同月比で増加となるも、前月比では減少であり、まだまだ厳しい状況が続く。

商店街

<福島市>

前半は寒い日が多かったが、後半は一転して夏日になり、梅、桜、桃の花が一気に咲いた。しかし街中でのイベントは少なく人出も少ない。今月も低調のようだった。

<郡山市>

前年の同時期では比較にならないので、前々年との同月比で見ると4月も増加でした。新年度に入りやや落ち着いた感じはありますが、商店街全体はまだ上昇傾向が続いています。昨年中止になったイベントも今年は徐々に開催されつつあります。5月は商店街の春の一大イベント「まちなか子供夢駅伝競走大会」が行われます。参加チーム数は減少が予想されますが、道路の除染作業も行い、万全の状態で開催できるように準備を進めています。復興イベントとして盛大に開催できればと考えています。

<会津若松市>

前半は肌寒く人通りも少なかった。中旬の桜祭りも開花せず寂しかった。後半は一気に暑くなり人通りも増えた。

<いわき市>

前半は天候不順で桜の開花も遅れ、入進学等の需要も一段落したためか、商店街の人出も鈍い日が続いた。後半からは暖かい日が続く、GW用の買物で人通りも増えた様子。ラトブも入館2000万人達成の集客効果で売上も伸び、天気にも恵まれた最後の3連休には商店街にもラトブ効果の恩恵があったようだ。

<南相馬市>

復興イベントが終了した4月は、閑散とした町並みが続く、継続的なイベントの実施が必要と実感しています。

卸売業

<卸売業>

(県中地区)

月半ばから気温が上がってきたため、飲料品等の売上が伸びている。夏場に向けた季節商品も比較的好調。卸団地の復興も順調に進み、落ちつきを取り戻しつつある。

<再生資源>

昨年からの世の中の不安定が当業界に活況を呼び戻すことなく、会社を維持するの精一杯である。当業界の過当競争は相変わらずで、誰でも容易に参入出来る現状では永久に変わらないと思う。業界の育成のためにはある程度の規制も必要ではないか。再生資源リサイクル業は厳しさが増すばかりである。

<青果物卸売業>

4月1日からの食品における放射性物質含有量の新基準値適用により青果物は100ベクレル/kgに引き下げられ、量販店からは更に低い値が求められている。市場から基準値を超えた青果物の流通が判明すると市町村単位で出荷規制がかかるため、市場自らが出荷前の野菜・果物を計測し、安心・安全な青果物の流通を行っている。しかし、福島県産青果物はそのイメージが先行し、消費者の不安を払拭できずに消費需要が伸びず、他県産のものに比べ安値で取引されているのが実態である。そのため農家の生産意欲が減退しており、福島県の基幹産業である第一次産業及びその関連産業の衰退が懸念される。

印刷業

<印刷>

新年度に入り3月の繁忙期に対して稼働状況は落ち着いた感じである。環境や見通しは厳しいが、各社とも付加価値づくりに注力していく傾向がある。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

昨年と比べ個人消費も良くなり、連休前半は好調であった。連休後半は天候悪化により人出は少なかった。福島市が実施する65歳以上の方を対象とした「福島市元氣・湯ったりサロン事業」の予約受付が5月から開始され、予約が殺到している。3月までは未就学児対象の宿泊補助事業だったことから週末の予約が殺到したが、今回は平日に予約が集中している。

<理容業>

暖かくなり桜も咲き心弾む季節。各店も少しではあるが客足が増えたようだが、例年に比べればまだまだ花見気分にはならない。しかし復興には悲観だけでなく元気を出し、気持ちを前向きに頑張ることが重要だ。調髪すれば心が和むし、元気も出る。地域を明るく元気にするため業界上げて社会と共に歩む理容の構築を目指す。それぞれの店が特色を出し、メニュー開発もしているようで、お客様に喜ばれる店創りに取り組む仲間も増えてきた。

<廃棄物収集運搬業>

廃棄物の発生状況は、増加してきているように感じます。相馬市においては除染事業が6月から始まります。当組合も建設組合と協力し、除染組合を設立し、行政からの除染事業を受注予定。今後の方向としては良くなる兆しが見えて来ているように感じます。

<旅行業>

今年のGWは連休を取りやすい日並びになっているせい国内旅行人数は前年度に比べ増加となり回復傾向にある。昨年は東日本大震災で自粛ムードが高まりGWもその影響を受けた。その反動もあると思われる。海外旅行は円高傾向が大きく作用し韓国、アジア方面の旅行が伸びている。訪日旅行は、依然として福島原子力発電所事故と円高傾向の影響で減少となっている。TDRの人気回復、東京ゲートブリッジ開業や大手では北海道キャンペーンが始まった。また5月は東京スカイツリーが開業するなどこれからの観光需要につながっていくと思われる。

建設業

<建設業>

(県一円)

新年度を迎え、新規工事はこれからだが、中通りの県北地区においては、市町村単位で放射能除染の委託事業が発注されてきている。(建設業界として受託している)

(県南地区)

前年度からの繰越工事に加えて、新年度発注の震災復旧工事の受注により売上高が確保できている。原油高の影響により、建設資材の値上げ要求があり、コスト高となっているため、利幅が少なくなっている。

<管工事>

給水設備申請は前月比・前年同月比とも減少。排水設備申請は前月比で減少し、前年同月対比では増加している。

<専門工事>

受注単価が実勢に追いついていない状況が続いている。原価割れでの安値競争も続いており、何らかの形で価格を安定させる必要が恒常的に存在する。

景況天気図 4月

天気図の見方

各景況項目について「増加」(または「好転」)業種割合から「減少」(または「悪化」)業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は右表のとおりである。

D・I値基準値			
☀ 快晴	30以上	☁ 曇り	-30~-10未満
☀ 晴	10~30未満	☔ 雨	-50~-30未満
☁ うす曇り	-10~10未満	🌧 大雨	-50未満

項目別DI業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食品製造	☀ 16.67	☀ 50.00	☁ 0.00	☀ 16.67	☀ 33.33	☀ 50.00	☀ 33.33	☁ 0.00	☁ 0.00	☀ 16.67	☁ 0.00	☀ 16.67
繊維製品製造	☔ -33.33	☀ 33.33	☁ 0.00	☔ -66.67	☔ -33.33	☀ 33.33	☁ 0.00	☁ 0.00	☁ 0.00	☀ 33.33	☔ -33.33	☔ -33.33
木材製品製造	☀ 25.00	☀ 50.00	☔ -25.00	☔ -25.00	☀ 25.00	☀ 25.00	☀ 25.00	☀ 25.00	☁ 0.00	☁ 0.00	☔ -25.00	☀ 25.00
鉄工機械製造	☔ -20.00	☀ 80.00	☔ -20.00	☁ 0.00	☔ -20.00	☀ 40.00	☔ -20.00	☀ 60.00	☁ 0.00	☔ -20.00	☁ 0.00	☀ 60.00
その他の製造	☔ -42.86	☀ 57.14	☀ 14.29	☀ 28.57	☁ 0.00	☀ 28.57	☁ 0.00	☀ 14.29	☔ -14.29	☔ -14.29	☔ -14.29	☀ 14.29
卸売業	☔ -75.00	☔ -25.00	☔ -25.00	☔ -25.00	☔ -75.00	☔ -75.00	☁ 0.00	☔ -25.00	☁ 0.00	☁ 0.00	☔ -50.00	☔ -50.00
小売業	☀ 33.33	☀ 11.11	☀ 11.11	☔ -22.22	☔ -11.11	☔ -11.11	☔ -11.11	☁ 0.00	☔ -11.11	☁ 0.00	☀ 11.11	☔ -11.11
商店街	☔ -33.33	☁ 0.00	☔ -33.33	☔ -16.67	☔ -50.00	☔ -16.67	☔ -33.33	☔ -16.67	☔ -33.33	☔ -50.00	☔ -50.00	☔ -16.67
サービス業	☀ 14.29	☔ -14.29	☀ 14.29	☔ -14.29	☀ 28.57	☔ -14.29	☁ 0.00	☔ -14.29	☀ 14.29	☔ -14.29	☁ 0.00	☁ 0.00
建設業	☔ -80.00	☀ 60.00	☁ 0.00	☀ 40.00	☁ 0.00	☀ 60.00	☁ 0.00	☀ 60.00	☁ 0.00	☀ 40.00	☁ 0.00	☀ 80.00
運輸業	☔ -33.33	☀ 100.00	☁ 0.00	☔ -33.33	☔ -66.67	☔ -33.33	☔ -66.67	☔ -33.33	☔ -33.33	☔ -33.33	☔ -66.67	☁ 0.00

福島労働局より

— 事業主の皆さんへ —

労働保険の年度更新等のお知らせ

平成24年度の労働保険の年度更新の申告期限は **7月10日** です。

期限までに、最寄りの銀行、郵便局、労働基準監督署、福島労働局において手続きをされますようお願いいたします。

ただし、田村市・南相馬市・伊達郡川俣町・双葉郡広野町・双葉郡楮葉町・双葉郡富岡町・双葉郡川内村・双葉郡大熊町・双葉郡双葉町・双葉郡浪江町・双葉郡葛尾村・相馬郡飯館村の地域の事業場につきましては、東日本大震災により労働保険料の申告・納付期限が延長しています。

福島労働局 総務部 労働保険徴収室

TEL 024-536-4607